

和白干潟を守る会 2015年度活動報告

和白干潟を守る会事務局

2015年度のまとめ

1988年に「和白干潟を守る会」を発足して、今年4月で28年が経ちます。大切な和白干潟の自然を未来の子どもたちに残すために、自然観察会や和白干潟まつり・クリーン作戦・鳥類、水質、砂質調査・和白干潟通信やパンフレットの発行・ホームページでの広報など、さまざまな活動を絶え間なく続けてきました。2013年には和白干潟を守る会の活動が日本ユネスコ協会連盟により「プロジェクト未来遺産」に登録されています。「和白干潟のラムサール条約登録を求める署名」の第2次集計分は、2015年1月に福岡市長と環境大臣へ提出しました。11月の「第27回和白干潟まつり」では「ラムサール宣言」を採択し、環境大臣や福岡市長、県知事に届けました。ラムサール条約に登録されるためには、和白干潟が国指定鳥獣保護区の「特別保護地区」に指定されなければなりません。2015年11月より、第2弾の署名活動を始めました。今回は福岡市議会議長あての請願署名です。今年12月末まで街頭署名活動も含めて頑張らしましょう。

ミヤコドリは過去最高羽数の17羽が飛来しました。クロツラヘラサギは19羽を確認しました。西日本新聞には「良かね！和白干潟の四季」の連載記事が10回になりました。昨秋はアオサの大量発生がひどくて、回収作業が追いつきませんでした。福岡市港湾局の回収予算も減らされており、アオサの堆積状況に追いつかずアシ原で腐り、和白干潟の生態系に悪影響が出ています。港湾局へ要望する必要があります。

「山・川・海の流域会議」の活動では、立花山・唐原川・和白干潟の保全グループが連携して保全活動を続けていますが、2015年は唐原川の清掃活動の他、和白干潟の生きもの観察会も実施しました。活動への企業や学校の支援が増え、「クリーン作戦」への参加が増加傾向です。日本ユネスコ協会連盟の仲立ちの企業も継続して参加されました。企業はクリック募金を企画したり、大学は特別講義を企画したり、多彩に協力していただきました。昨秋は保育園や学校等の観察会が続き、嬉しい悲鳴でした。観察会ガイドの充実を目指しましょう。2015年度からは新たに「和白干潟の四季の自然さがし」を始めました。観察会ガイドの勉強を兼ねて、新たな会員増加を目指しています。今年度も引き続き企画していきたいと思っております。2015年度も素晴らしい活動ができたと思っております。

今年度も和白干潟を守る活動に、皆さまのご協力をお願いします。和白干潟がぜひ「ラムサール条約登録湿地」となるように希望を持ってがんばりましょう！自然豊かな和白干潟を、みんなの努力で未来の人たちに渡したいと思っております。引き続き若い人たちの活動への参加を心から待っています！

和白干潟を守る会 代表 山本廣子

活動方針1. 和白干潟環境教育プログラムによる「自然観察会」、「クリーン作戦と自然観察」、「和白干潟まつり」「学習会などの企画」を通して、多くの市民、特に若い世代や子どもたちに和白干潟の自然の大切さを認識してもらい、自然保護の気運を高める。

1、和白干潟観察会

2015年4月、観察会グループミーティングを行い、5月に観察会の案内状を保育園、小中学校、高校、公民館等へ送付した。観察会の依頼を受けると、事前に下見・打合せを行い、観察会に来る学校等でパンフレットやビデオを使った事前学習をしてもらった後、観察会を実施した。

2015年度中（1月～12月）の和白干潟自然観察会は、年間20回で、延べ1,269名の参加があ

った。学校関係からの依頼では、保育園4回（香椎保育所、ちどり保育園、玄海風の子保育園）145名、小学校6回（和白小学校、西戸崎小学校、香椎東小学校）710名、中学校1回（筑陽学園中学）74名、高校1回（柏陵高校）44名、短大1回（精華女子短大）30名、合計13回、1,003名あった。和白小学校では、2月末に毎年まとめの発表会があり、守る会のガイドなど参加している。その他に、「MS&ADグループ」、「チームエナセーブ未来プロジェクト」、ウオールレスジャパンなどの和白干潟の観察会が4回、延べ218名あった。また、今年から新しく企画した「四季の和白干潟の自然さがし」では、3回、延べ48名の参加があった。これらの他に、和白干潟保全のつどいとして「和白干潟の生きものやハマボウを見る会」を7月に開催し、90名の参加があった。

ガイドの固定化と高齢化の問題に対しては、即戦力となる新規入会者も現れ、改善の傾向にある。ガイドの知識の向上と共有化を図るために、四季に応じたフィールド研修「四季の和白干潟の自然さがし」を始めるとともに、望遠鏡接眼レンズ、三脚を購入、望遠鏡買取りなどガイド用具の充実を図った。

2. 和白干潟の自然観察ガイド講習会

和白干潟の自然の特性を良く理解して観察会の案内が出来るように、12月20日に第18期「和白干潟の自然観察ガイド講習会」を開催し、13名が参加した。

日本野鳥の会の田村耕作氏を講師に招き、「アン原付近にはどんな鳥が来るのだろう」をテーマに学習。観察会における安全対策として、事前に道順や会場の状況を想定した安全対策を考えておくことや身近にある小さな植物の実なども野鳥の餌になっていることなどを学んだ。

3. 和白干潟のクリーン作戦と自然観察（毎月第4土曜日）

毎月第4土曜日午後3時から5時まで、海の広場から唐原川河口、和白4丁目の範囲をその時の状況に合わせて清掃し、同時に自然観察、水質や、砂質調査を実施した。

年間12回、延べ546名が参加し、1763袋のゴミを回収した。定例のクリーン作戦の他に、自然観察会、干潟まつりや臨時の清掃などに延べ378名が参加し、603袋を回収した。全体では延べ924名が参加し、2366袋のゴミを回収した。この内、守る会人数は、延べ165名だった。粗大ゴミは、自転車、タイヤ、浮き、寝具、家具類、流木など、様々な物があった。定例のクリーン作戦では、企業や学生の参加が増えたが、2015年度は、トヨタ自動車のイベントが無くなり、全体の人数は減ったものの、アオサの時期には学生や企業の参加人数が多く、大量のアオサが回収できた。

年度	活動項目	回数	延べ人数 (人)	ゴミの量 (袋)
2014	クリーン作戦	12	802	1,359
	その他	9	668	780
	合計	21	1,470	2,139
2015	クリーン作戦	12	546	1,763
	その他	6	378	603
	合計	18	924	2,366
増加割合(%)		85.7%	62.9%	110.6%

総括すると、参加総人数は昨年の約62%ゴミの量は約110.6パーセントとなっている。（上表参照）

- ・4月25日（土）のクリーン作戦は「干潟を守る日」と「春のビーチクリーンアップ」に参加。
- ・6月7日（日）は「ラブアースクリーンアップ」に参加。
- ・9月26日（土）のクリーン作戦は「国際ビーチクリーンアップ」に参加しゴミデータ調査を実施。ゴミデータ調査には毎年、九州産業大学経済学部宗像ゼミの協力があり、力となっている。結果はプラスチックゴミが依然1位となっている。

4. 第27回和白干潟まつり

和白干潟まつりは直接干潟の自然を見て、体験して干潟の重要性和守っていくことの大切さを認識してもらう目的で、グリーンコープ生協ふくおか福岡東支部と共催で開催している。第27回は11月22日（日）開催し、天候に恵まれ450人の参加があった。昨年は、グリーンコープ生協の祭り関連が重なり、参加者が300人と少なかったため、今年はミニコミ誌への掲載、昨年の参加団体などへの呼びかけに力を入れた。また、

昨年からはじめた生協組合員は駐車可としたことで若い家族連れの参加も多かった。また、出店・出展者も新規も含めて21と多く、賑わいを見せた。バードウォッチングはミヤコドリ、クロツラヘラサギ、カモ類など過去最高の55種を観察でき、多くの市民に楽しんでもらった。植物観察、干潟のいきもの観察、自然遊び、ステージも好評だった。写真展も、新しい写真の展示、パネル展にも西日本新聞連載記事の紹介など新しい試みも好評だった。福岡市議会への「ラムサール登録を求める署名」の取り組みも干潟まつりをスタートとし、大々的にアピールした。ラムサール宣言を今年も採択し、福岡市長、福岡県知事、環境省など関係先に送付した。今回は協賛団体が1社増え、カンパも多く、参加者増もあって、収支は黒字に終わった。課題として、テントなど機材、用具の不足があり他団体の協力を得て開催できたが、今後、機材、用具の準備に十分な事前交渉が必要となった。

5. 和白干潟に関する様々な学習会や見学会等を企画して、会員のみならず、広く一般市民が和白干潟の価値と保全の必要性を学ぶ機会を増やす。その一環として、和白干潟のアオサの再利用について実践的な検討を開始する。

今年、「四季の和白干潟の自然さがし」を新規企画として、ガイドの育成研修と同時に一般市民参加も無料で呼びかけ開催した。参加者には次回企画のお知らせを発信し、継続的な参加を呼びかけている。春・夏・秋・冬それぞれに和白干潟の生態系をつくっている鳥、植物、生物などの種類特徴などを知ることが重要であり、一般市民も参加することによって干潟の自然の持つ価値に気づくことができる。回数を重ねてデータを集積し、リーフレット作成をめざしている。

また、アオサの再利用については、果樹生産者からの情報が広まってきたため、回収したアオサを利用する生産者もあり、新聞でのクリーン作戦案内には、アオサの再利用を呼びかける文章を入れ、HPでも呼びかけている。自家菜園での利用をしている会員が情報交換し、機会あるごとに情報発信に努め、回収したアオサを取りに来る人が少しずつ増えている。

7月6日には潮流観察会を実施、(会員が7名参加)海ノ中道大橋から和白干潟に砂の流れ込む状況を観察し、砂の堆積が進んでいることを確認した。

活動方針2. 和白干潟の大切さと保全の必要性を広く社会に訴えるため、和白干潟を取り巻く自然環境の変化について、干潟及びその周辺の生物の調査、漂着ゴミ調査などの活動を継続し、調査結果を公表する。

6. 調査

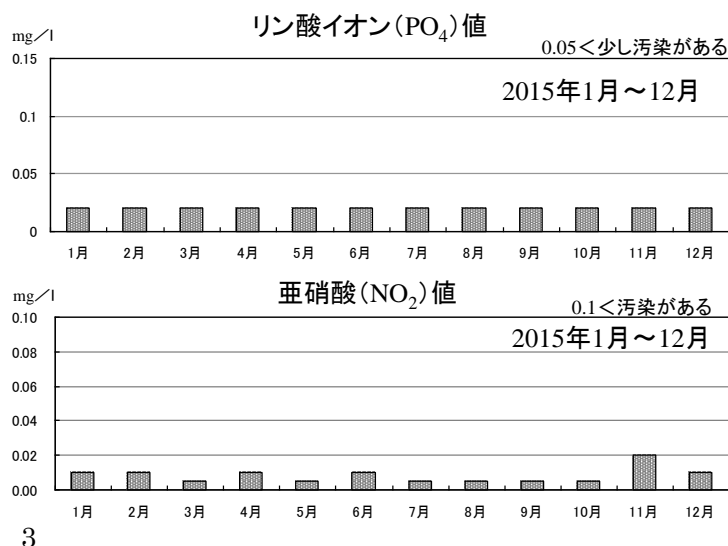
調査項目としては毎月実施する水質調査及び砂質調査、9月の国際ビーチクリーンアップ参加でのゴミ内容調査のほか、水鳥調査などを実施した。水質に関して、新たな調査地点の観測を開始した。

(1) 水質調査 (毎月1回実施)

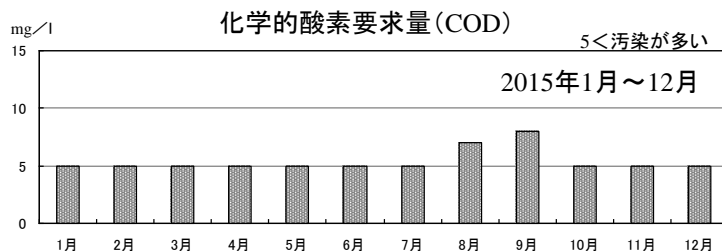
①リン酸イオン値 (PO_4) は、2015年度は年間を通して0.02以下であった。0.05を超えると少し汚染がある状態といわれているので、2015年度は比較的きれいな水の状態であった。

②亜硝酸値 (NO_2) は海水の汚染度を表す。2015年度の亜硝酸値は、年間をとおして0.02を越えることがなかった。

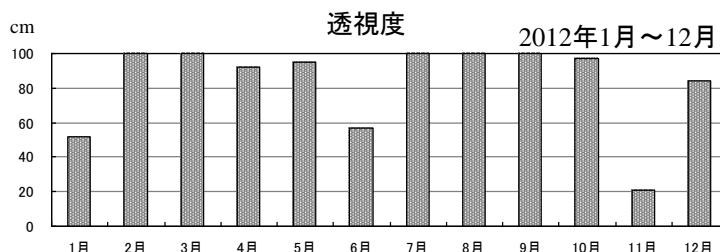
※少し汚染がある状態である。



③化学的酸素要求量（COD）は毎年夏場には悪化する傾向にある。2015年度は8月、9月は5を上回ったが夏場でも10までにはならなかった。



④透視度については、以前は通常30cm位であったが、2015年度は11月を除き、年間を通してよい状態だった。



なお、和自海域におけるアオサの大量発生は続いているので、新たに唐原川・和自川の水質調査を5月から開始し、現在データを蓄積しているところである。

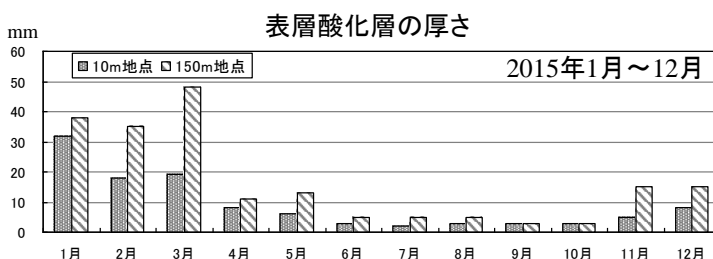
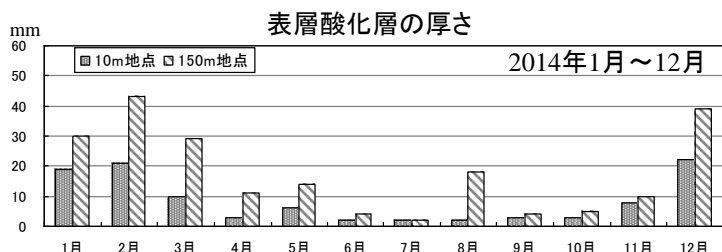
(2) ゴミ内容調査

9月の国際ビーチクリーンアップにて、干潟に漂着したゴミを回収して内容調査を実施した結果、30種類のゴミが回収された。特に多かったのは、プラスチック類で、多い順に食品の包装・袋、その他プラスチック袋、ペットボトルなどであった。この調査には、毎年九州産業大学の宗像ゼミに協力していただいている。

(3) 砂質調査

和自干潟・海の広場前10m地点と150m沖合地点の表層酸化層の厚さと還元層の黒色度を測るものである。表層酸化層が厚いほど干潟が健康な状態にあることを示す。

右のグラフは、2014年度と2015年度の表層酸化層測定結果である。沖合いの方が厚い傾向にあるが、2015年秋のアオサの堆積で11月、12月は浜辺側、沖合いとも酸化層が薄くなっている。

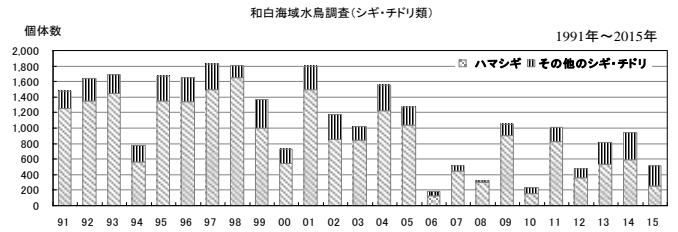
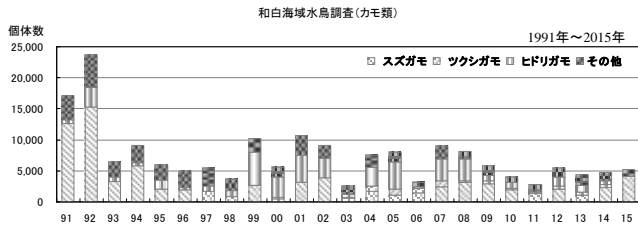


(4) 鳥類調査

鳥類調査では以下の調査に協力した。

① 1月 和自海域水鳥調査（日本野鳥の会福岡支部・IWRB 国際水禽湿地調査局）2015年1月10日に実施。

和自海域の水鳥の越冬数（和自海域水鳥調査）は、カモ類は前年の4,676羽より少し増加したが、最多の1992年の23,719羽と比べて約4分の1の5,266羽に減少。シギ・チドリ類は前年の945羽より減少し、1990年代の約1,600羽から514羽に減少した。調査参加者は5名。



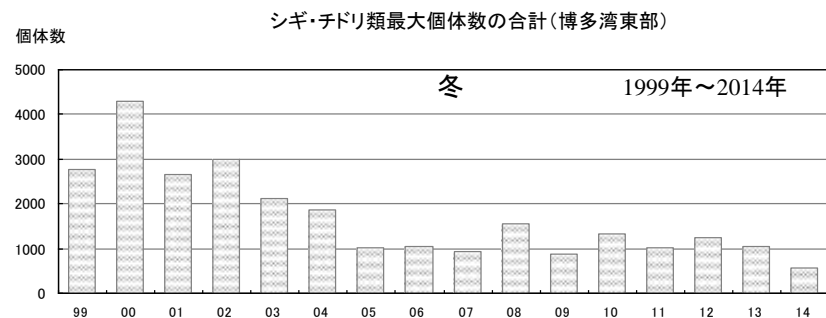
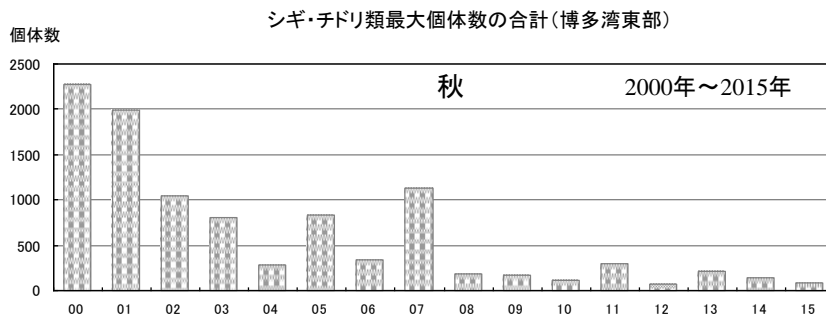
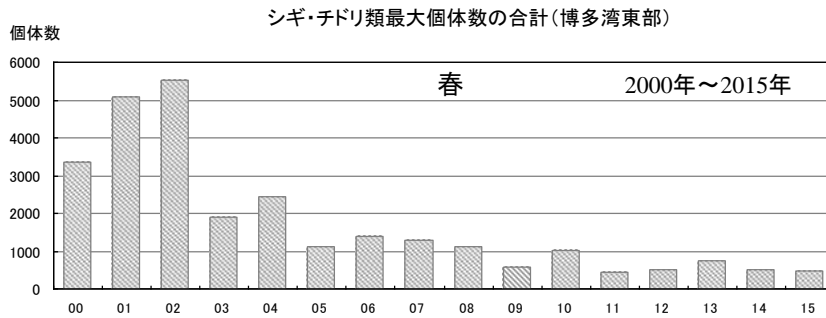
② 環境省モニタリングサイト1000 シギ・チドリ調査（環境省・NPO 法人バードリサーチ）

冬期：2014年12月、2015年1～2月 今津と博多湾東部各3回実施

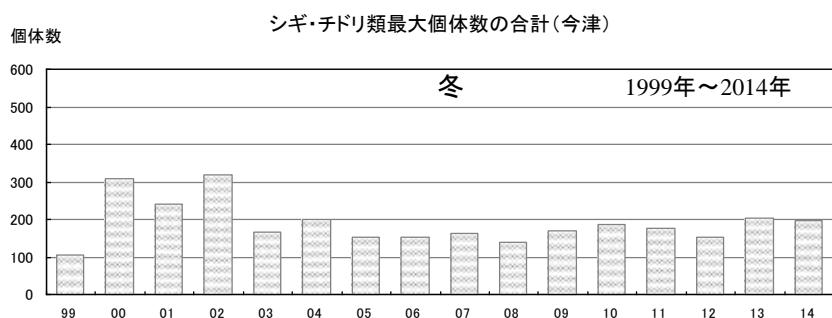
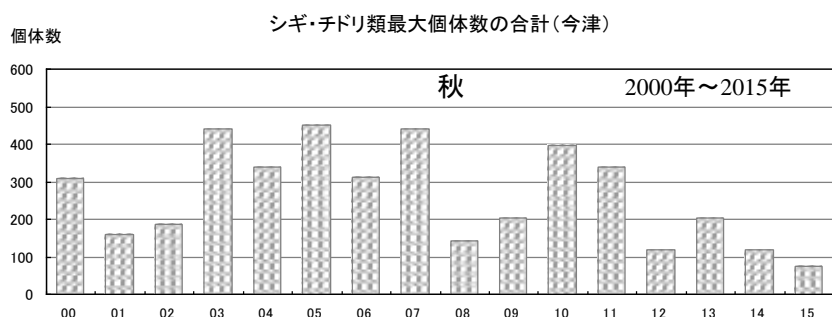
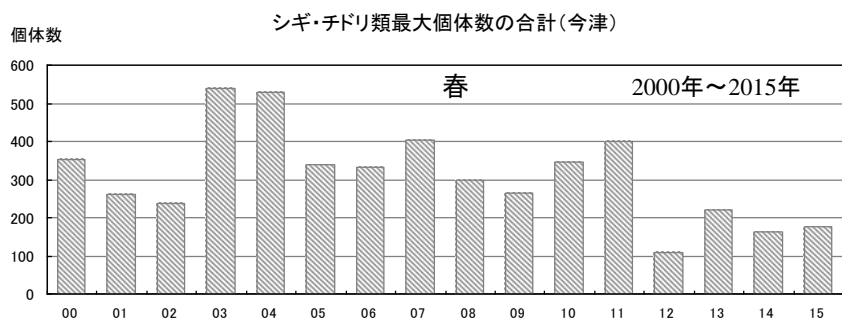
春期：2015年4月～5月 今津と博多湾東部各3回実施

秋期：2015年8月～9月 今津と博多湾東部各3回実施

博多湾東部海域のシギ・チドリ類最大数合計は、2014年度冬期は2000年の4,300羽から570羽に減少し（昨年1040羽）、2015年春期は2002年の5,509羽から485羽に減少（昨年513羽）。2015年秋期は2000年の2,271羽から80羽に減少した（昨年143羽）。希少種では、冬期にクロツラヘラサギは最大19羽（昨年15羽）、ツクシガモ122羽（昨年494羽）、ズグロカモメ2羽（昨年3羽）をカウントした。



今津のシギ・チドリ類最大数合計は、2014年度冬期は2002年の319羽から198羽に減少し（昨年204羽）、2015年春期は2003年の538羽から175羽に減少（昨年162羽）。2015年秋期は2005年の450羽から73羽へ減少（昨年117羽）。希少種では、冬期にクロツラヘラサギは最大21羽（昨年20羽）、ツクシガモ70羽（昨年104羽）、ズグロカモメ12羽（昨年9羽）をカウントした。



(※ 博多湾東部と今津のグラフの個体数については単位が違うことに注意！)

この20年ほどで博多湾東部の鳥類は大きく減少した。今津は減少状態である。2015年の鳥類調査参加者は、毎回8名から10名、延べ84名が参加。また一斉調査以外にも個人で調査を行った。鳥類調査担当が高齢化などで減少している。調査協力者を求めている。

※ミヤコドリは2015年9/29に2羽観察（初認）、9/30に5羽観察、10/31に15羽、11/5に17羽（過去最大羽数）を観察した。（2014年は最大9羽観察）

活動方針 3. 貴重な鳥類をはじめとする生物多様性に富む和白干潟を「ラムサール条約登録地」とするための取り組みを強化する。博多湾の自然を壊す人工島などの公共事業には厳しい監視と関心を持って対処する。今ある自然を壊さないこと、壊れた自然は元の自然に戻すことを目指す。

和白干潟の生態系を守るために、山・川・海の流域連携に取り組み、地域の自然再生への取り組みを進める。和白干潟を守る会の活動をより広く知ってもらい、活動への参加者、賛同者を増やすために広報活動を強化する。

7. ラムサール条約 2015 年度登録を目指し、行政、議会、市民に向け活動に取り組む。

1月29日福岡市長に2年間にわたる9,723名分の署名を添えて「和白干潟のラムサール条約登録を求める要望書」を提出し、環境大臣には9,558名分届けた。しかし、福岡市は要件が整っていないとして、環境省への申請を行わず、2015年のラムサール条約登録は実現しなかった。要望書提出にあたって、環境局と意見交換した際、「干潟の価値を誇りと思えるよう市民全体に認識してもらうことが必要」との見解が示されたこともあり、次は市長宛ではなく、市議会の理解を求めるため「150万都市福岡に自然と共存する『博多湾・和白干潟のラムサール条約登録』の早期実現を求める」の請願署名活動に取り組むこととした。第27回和白干潟まつりをスタートとして、2018年の実現をめざす。

また、4月に行われた福岡市議会議員選挙において東区在住の候補者全員に和白干潟のラムサール登録に関する公開アンケートを実施、HPで回答を公開した。

8. 福岡市の環境政策、開発計画に対し、情報収集、学習、意見交換、提言に努める。

(1) 福岡市の政策についての取り組み

- ① 8月に、福岡市環境教育・学習計画第三次原案に対する意見提出の取り組みを行い、3名が提出した。
- ② 10月、福岡空港から雁ノ巣への「ヘリポート移設計画」について、会員が地元説明会に出席、情報収集した。2016年1月末、議員が議会で「博多湾環境保全について」の一般質問の参考にするため、ラムサール条約登録地「荒尾干潟」の視察をするにあたり守る会から質問項目を出し3名が同行し、ラムサール登録にいたる経緯や、その後の状況など荒尾市役所で担当者と意見交換した。

(2) 福岡市との連携

- ① 「和白干潟保全のつどい」で、他団体とともに、港湾局と毎月1回意見交換の場を持ち、担当2～3人が出席し、イベントなど共催している。イベントには担当以外の守る会会員も参加し、望遠鏡貸し出しや、役割分担などサポートしている。7月には「和白干潟の生きものやハマボウを見る会」を実施、95名が参加。8月、9月、10月の3回に分けて「アオサのお掃除大作戦」を実施、参加者も年々増え、毎回アオサを大量に回収している。12月には「バードウォッチング in 和白干潟 2015」を実施、36名が参加した。定例会合の場で、アオサ回収委託業者の車によって沿岸の植物が踏み倒されたことについて、今後は守る会に事前に相談することを確認した。
- ② 「エコパークゾーン水域利用連絡会議」は、参加メンバーの出席が整わず今年度は開催されていなかったが、2016年2月29日に2015年度の第1回目が開催予定。
- ③ 「ラブアースクリーンアップ」は、福岡市が主催し、6月7日、和白干潟は和白干潟を守る会が担当。福岡工業大学附属城東高校生はじめ102名が参加し、ゴミ70袋を回収した。

9. 「山・川・海の流域会議」の他団体と連携して、立花山・唐原川流域・和白干潟の保全活動や観察会などに取り組む。

1月新春講演会は、26名が参加、講師福田勉氏（立花山グリーンガイドの会会長）により「立花山の希少植

物と流域保全・保護の重要性」について話があった。5月に46名が参加して「唐原川お掃除し隊」を唐原川河口付近で実施、長年にわたって堆積していた粗大ごみの多さに驚かされた。8月には、区役所と山・川・海の流域会議、九産大内田ゼミ（唐原川流域会議）、下原校区で唐原川の生態系を損なわないように浚渫しない区間を設けることが合意され、「唐原川保全区」が成立した。唐原川保全区立ち上げ式として下原小学校生徒を対象に開催した九産大生主催の「ふれあい環境教室」をサポートした。これにより下原校区住民の唐原川流域保全の意識向上につながった。10月秋のイベント「和白干潟の探検」では26名が参加し、和白干潟にはどんな生き物がいるかを探検した。11月和白干潟まつりに流域会議が出席、活動や、立花山の植物標本パネル展示、竹製品、九産大生手作りの環境小物などの販売を行い、構成団体楽友会が会員募集のアピールを行った。

10. 和白干潟を守る会の活動を担うスタッフの確保に努める。

今年度の活動では、近年入会の会員が観察会、干潟まつりなど様々な場面で欠かせない戦力として活動を担った。会員の高齢化に伴う体力的な問題も、クリーン作戦では団体会員（環境サービス）が力を発揮している。今後も幅広い年齢層の多様な経歴を持つ会員がそれぞれの個性や得意分野を活かし、いきいきと活動していることを対外的にアピールし、さらなる会員確保に努めたい。

11. 2018年に創立30周年を迎える和白干潟を守る会の記念事業について検討を開始する。

「四季の和白干潟の自然さがし」を企画して、春から秋まで実施。「冬其自然探し」で1年間の報告をまとめ、次年度もさらにこの企画を継続し、より深く和白干潟を知ってもらえるリーフレット作成に向けて準備している。和白干潟の様々な生態系を明らかにし、現状の記録を蓄積することで、この生態系が損なわれないように、考察していく。

12. 広報の強化について

(1) 和白干潟通信・ホームページ・リーフレット類

- ① 和白干潟通信は1月113号、4月114号、7月115号、10月116号を各5,000部ずつ発行した。干潟通信は（公財）イオン環境財団の助成金を受けて、ロータリー印刷（株）で作成した。配布先は会員、マスコミ、行政関係、和白干潟付近の家庭、クリーン作戦、自然観察会参加者など。発送作業はみんなで行っている。配布ボランティアは現在25名である。

また、干潟通信、リーフレット類は東区内公民館、臨海リサイクルプラザ、郵便局、周辺大学、喫茶「ホット」、藍の家、薬局、画材店、ホテルAZ和白店、コミセン和白などに置いてもらっている。

- ② 「クリーン作戦と自然観察」のお知らせポスターは東区役所、東市民センター、コミセンわじろ、公民館、郵便局、ホームセンター、周辺大学（福岡工業大学、九州産業大学、福岡女子大学）にも掲示を依頼している。
- ③ リーフレットの増刷
 - ・ 「和白干潟の自然案内」10,000部改訂増刷。5年毎に見直している。
 - ・ 「環境教育シリーズⅡ」10,000部改訂増刷。
- ④ ホームページ

4名が分担し、編集している。最新の活動報告をブログに掲載、年間を通じ対外活動、和白干潟まつりなどの行事予定や和白干潟の自然情報など写真も豊富に更新し、発信している。4月の統一地方選挙の公開アンケート結果もホームページに掲載した。署名用紙もホームページから打ち出せるようにした。ホームページを通して色々な活動への参加者が増えている。また、キャノン「未来につながるふるさとプロジェクト」クリック募金もホームページからつながるようにしており、寄付金獲得に欠かせないツールとなった。5月にアクセスカウンター変更。

⑤ イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」への参加

イオンのイエローレシートキャンペーンに参加して8年目となった。イオングループが全国的に実施しているキャンペーンで、環境や福祉などのボランティア団体を支援するため毎月11日に買い物したときの黄色いレシートを団体のボックスに投ずると、その1%相当額のカードがイオンから団体に寄贈されるという仕組みである。2015年度は、4月から2015年2月まで、イオン香椎浜店で黄色いレシートの投函呼びかけを実施した。毎月2～4人が参加しており、延べ44人が参加した。呼びかけの時、たすきや守る会のラムサールキャンペーンブルゾン、ベストを着用し、干潟通信とリーフレット、和白干潟まつりのチラシ等を渡している。4月にはイオン香椎浜店で2014年度分の贈呈式があり、守る会が活動を紹介し、ギフトカードをいただいた。

⑥ 2月には初めて「和白干潟の写真展」を東市民センター1階ロビーで約1ヶ月間開催した。市民センターを利用する市民に干潟の鳥や植物など自然の豊かさを知ってもらう良い機会となった。リーフレットや通信、資料なども配置したが好評で品切れとなった。

13. 講演活動

- (1) 5月31日「新福岡空港ストップ連絡会総会」で山本代表が特別講演「和白干潟のラムサール条約登録を目指して（和白干潟の自然と環境保全活動）」を行った。
- (2) 11月5日香住丘小学校5年生と先生対象に山本代表が「和白干潟を未来へ（和白干潟の環境と保全活動）」の講演を行った

14. 情報の発信：新聞や雑誌、他団体の会報等に鳥情報、和白干潟の紹介を発信

- ・福岡市長へのラムサール条約登録実現を求める署名の提出について新聞社4社に発信。
- ・環境省九州地方環境事務所長、福岡事務所長に環境大臣宛署名を郵送したことを文書にて発信。
- ・(財)日本自然保護協会(NACS-J)に年間スケジュール表送付、「自然保護」誌に「和白干潟のクリーン作戦と自然観察」、「ガイド講習会」、「和白干潟まつり」の掲載を依頼した。
- ・自然関係4誌に、「和白干潟自然観察ガイド講習会」、「和白干潟まつり」の案内掲載を依頼した。
- ・統一地方選立候補者への公開アンケート発信。回答結果をHPに掲載。新聞社に情報提供した。
- ・くすだひろこきりえ展「和白干潟の自然」(レストラン花ももで5/1～5/30)開催し、パンフレットや通信を配布。
- ・日本河川協会HPの「カワや水の活動団体」HPの守る会アドレスの変更。
- ・ガイド講習会のチラシとポスターを作成、東市民センター、コミセン和白に掲示依頼した。
- ・JAWAN通信に山本代表が原稿執筆した。
- ・JAWAN「自然と環境を守る交流会～海・山・川・いのちをどう守る」環境保護団体紹介に原稿執筆。
- ・第27回和白干潟まつりについて新聞4社、TV局5社、JAWAN, wetlandメールに案内、TV局2社が取材、放映した。ミニコミ誌7社に情報提供し、3誌に掲載された。
- ・コミセンわじろに「四季の和白干潟の自然さがし」、「和白干潟の探検」についてのチラシとポスターを掲示依頼。
- ・ミヤコドリ、クロツラヘラサギの飛来について新聞各社に情報提供し、新聞に掲載された。
- ・チームエナセーブ未来プロジェクト観察会とクリーン作戦の取材を新聞4社とTV局4社に依頼。
- ・福岡市環境局「活動団体ガイド」の掲載内容を確認し、返送。環境局HPの修正登録送付、年間活動予定を送る
- ・独立行政法人環境再生保全機構の環境NGO・NPO活動状況調査に記入送付。
- ・環境省「自然学校に関するアンケート調査」に協力

15. 取材協力：新聞社、テレビ局、雑誌などからの取材に協力

- ・ MS&AD のラムサールサポーターの HP に写真と記事で協力した。
- ・ 西日本新聞に連載される「良かね！和白干潟～四季の和白干潟の自然」について取材協力。(2/25 から年間を通し連載中)
- ・ NHKTV福岡の、砂堆積についての取材に協力した。
- ・ ミヤコドリ飛来でRKBラジオ「スナッピー」の取材。
- ・ キヤノン HP のために和白干潟の写真と原稿を提供した。
- ・ あしたの日本を創る会「まち・むら」誌の活動ルポ対象として和白干潟を守る会が選ばれ、西日本新聞にて和白干潟の自然を担当している宮上記者の取材に協力。
- ・ とびうめ信用組合のHP掲載に協力。
- ・ RKBTVのクロツラヘラサギの取材に協力、放映された。

1 6. 対外団体との交流活動、協力・参加活動

(1) 和白海岸定例探鳥会

毎月1回「和白海岸探鳥会」で日本野鳥の会福岡支部に協力している。

(2) JAWAN・JEAN

- ・ JAWAN「干潟を守る日2015」参加:4月のクリーン作戦と併せて実施。2015年宣言を出した。
- ・ JAWAN 総会:3/28 総会に、東京在住2会員が出席。昨年に続き、山本代表が運営委員に就任。
- ・ JEAN「国際ビーチクリーンアップ(春・秋)」に参加した。

(3) グリーンコープ生協

第27回和白干潟まつりを共催した。

(4) 福岡市ボランティア交流センター「あすみん」

西南学院大学、福岡工業大学での学生ボランティアミーティングに参加し、会の活動紹介と募集を行った。

(5) 蒲生を守る会

蒲生干潟を守る署名活動に協力。干潟まつりに現況をパネル出展してもらった。機関紙交流を続けている。

(6) 新福岡空港ストップ連絡会

総会にて「和白干潟をラムサール登録地に」講演、きりえの展示などを行った。署名協力や干潟まつりへのカンパなど協力。

(7) 日本自然保護協会

- ・ 「砂浜ビンゴ」和白干潟版と雁ノ巣外海版を実施。結果を報告。

(8) 東区から玄海原発の廃炉を考える会

リーフレット創刊にあたり、趣旨に賛同しメッセージと挿絵を提供した。干潟まつりでの展示も。

1 7. 「和白干潟を守る会」の運営に関して

(1) 定例会議・総会

原則第4土曜日に、守る会事務所で「定例会議」を12回開催。2月は「総会」を開催し、2月は同日に臨時定例会議を開催した。出席者は各回13～17名。平均14名出席し、総会で活動方針を決めるほか、会の活動に関する報告、予定を共有し、重要な事項は定例会議で検討し、決定した。事務局会議を必要に応じて開催した。干潟まつり前日には、打ち合わせのための会議を開催した。

事務局体制では、今年度から会計の日常的な管理と帳簿管理を2人体制で分担した。通信発送担当者の交代、干潟通信、鳥類調査などの点検係、干潟まつり実行委員の補充を行い、適材適所の人材活用に努めた。

(2)その他

① 3月、公益法人日本自然保護協会主催の平成26年度日本自然保護大賞に応募、「博多湾和白干潟の自然保護活動」が入選した。

②望年会参加者 16名(12/25)・大掃除参加者 13名(12/26)

(3)助成

・イオン環境財団から助成金をいただいた。

(4)寄付

①イオン九州(株)から「幸せの黄色いレシートキャンペーン」によりギフトカードを寄付いただいた。

②キャノンマーケティングJから「ふるさとプロジェクト活動支援金(クリック募金)」、寄付つきドリンク自販機を通じた寄付をいただいた。

③日本ユネスコ協会連盟から寄付をいただいた。

④MS&ADグループから寄付をいただいた。

⑤あいおいニッセイ同和損害保険株式会社からWeb約款寄付をいただいた。

⑥スズキ自動車和白店でバザー売上金などから寄付をいただいた。

⑦博多湾の自然を守る会が解散するに伴い、寄付をいただいた。

⑧和白東レインボークラブ連合会より寄付をいただいた。

⑨会員や一般市民、観察会、干潟まつり、望年会オークション等でカンパを受けた。

(5)2014年度の新規会員

・個人 7名

(6)2015年度末の会員数(新規会員を含む)

・個人会員： 248名

・団体会員： 13団体

18.パンフレット類の在庫

(2016年1月21日現在)

2015年度末のパンフレット類の在庫数は、概略次の通り。

・「和白干潟を守る会」リーフレット	5,600
・和白干潟の自然案内(和文)	8,200
・和白干潟の自然案内(英文)	528
・環境教育シリーズI(環境教育プログラム)	2,500
・環境教育シリーズII(水鳥、底生動物、植物図鑑)(和文)	8,750
・環境教育シリーズII(英文)	461
・環境教育シリーズII(韓文)	78
・和白干潟観察マップ・年間スケジュール表	※毎年印刷
・「和白干潟を守る会」封筒	3,900
・「ラムサール条約と和白干潟」	255
・「未来につなごう和白干潟～和白干潟を守る会20年のあゆみ」	31

19.その他

・海ノ中道海浜公園委託の鳥類調査に協力(毎月1回)3名

・全国一斉ウスバキトンボ調査協力(むさしの里山研究会)